

スマート化で効率UP

J A町田市忠生地区野菜部会に所属する田中溪さん(26)は、昨年4月に就農し、環境制御システムを使った農業に力を入れている。

農業を営む祖父の手伝いを幼い頃からしていた田中さんは、小学生の時には農業大学に進学する決意を固めていた。東京農業大学で現場の作業を学びながら、最新設備に

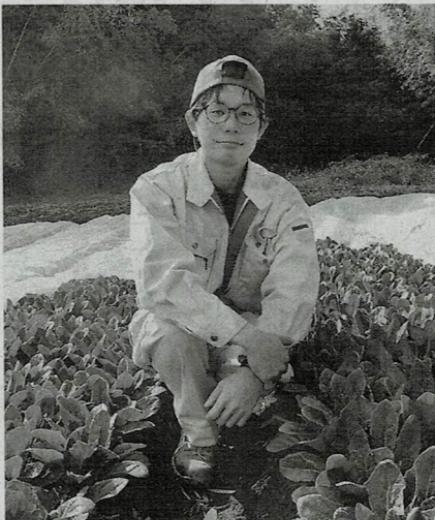
町田市 田中 溪さん(26)

触れ、知識を習得。同大学大学院へ進学後は、小麦の品種改良の研究を行っていた。

1人で生産から販売までを行うため、スマート農業による作業の効率化

環境制御システムを導入。小さな種の野菜にはミストительн水を用い、底面から水にはウォーターコンピューターを設置。あら

田中さんは「昨年はアロマレッドという苦味やにおいの少ないニンジンを作った。子どもでも食べやすい品種を通じて、学校給食への提供を目指し、作った野菜を多くの人に食べてもらいたい」と意気込む。(町田市)



スマート農業で作業の効率化を図る
田中さん

期待の新星!

かじめ設定した時刻に、決められた量が散水されるよう仕組みをつくった。

さらに、スマートフォンを駆使してハウスの温度や湿度を管理している他、変化に応じて循環扇を操作して調整を可能にしている。夏はオクラや小松菜など、冬はホウレンソウやナバナを栽培・出荷している。

田中さんは「昨年はアロマレッドという苦味やにおいの少ないニンジンを作った。子どもでも食べやすい品種を通じて、学校給食への提供を目指し、作った野菜を多くの人に食べてもらいたい」と意気込む。(町田市)